

男性の家事参画はメリット？ 「女性の活躍推進」考その5

「男子厨房に入るべからず」はほぼ死語に近いだろう。長い独身生活や食べることが好きなこともあり、今でも時々、休日に料理はする。ただ「断捨離」ブームをよそに、掃除や整理整頓が苦手な部屋は新聞の切り抜きや本が散らかり、同居人からは非難されることが多い。今回の論考は、男性の家事参画をリスクマネジメントという観点から考察する。(編集部・52歳男性)

薄い長時間労働への抵抗感

「女性の活躍推進」を阻害する要因の一つには、男性の家事参画が十分に行われていないことが挙げられます。妻の家事負担の重さが解消されなければ、働く妻のキャリアアップや、専業主婦である妻の再就職は容易なことではありません。専業主婦などを妻にもち、家事参画を求められないまま過ごしてきた中高年の男性管理職が多く存在する職場ほど、長時間労働への抵抗感が薄く、職場環境の改善

が進まないことが問題です。

「2011年社会生活基本調査結果」(総務省統計局)によれば、1日の生活時間のうち、男性の家事時間の平均が37分であるのに対し、女性の家事時間の平均は2時間59分です。さらに、家事時間の内訳を比較すると、男性が最も多くの時間を費やしているのは「食事の管理」(27・8%)と「住まいの手入れ・整理」(27・8%)で二つは同率ですが、女性が最も多くの時間を費やしているのは「食事の管理」(51・1%)で、圧倒的

割合を占めています。これらのことから、男性に比べて、女性の家事負担は重く、特に「食事の管理」が負担になっていることがうかがえます(図表)。

「夫に料理してほしい」

日本総合研究所が東京圏に勤務する40～50代の男性管理職516人を対象に実施したアンケートの中では「家事(育児・介護以外)を行うのは妻の役割だ」という考え方に賛同をしている男性管理職は約3割にとどまっています。男性管理職の多くが、

家事(育児・介護以外)を自分の役割でもあると認識している状況がうかがえ、中高年男性の家事への関心は高いと考えます。

一般財団法人ベターホーム協会のアンケート「定年退職した夫の昼ごはん、どうしていますか？」の中では、約4割の妻が夫に料理をしてほしくないと思っており、その理由として「キッチンが汚れるから」(80・9%)、「うまく作れないから」(78・2%)を挙げています。男性自身は家事参画への関心を持っていても、妻が阻害しているケースも少なくないようです。妻とのコミュニケーションを通じて、妻の理解と協力を上手に得ることは、家事参画を行うために必要となります。

しかし、ここで一つの疑問が浮かびます。家庭内で経済的責任を主に担う男性であるほど、家事参画まで行うことは、男性のさらなる負担を増やすことに

つながります。そこまでして、家事参画を行う男性にメリットはあるのでしょうか。本稿では二つのことを提起したいと考えます。

まずは料理してみませんか

一つ目は、リスクマネジメント対応です。内閣府「男性に

とつての男女共同参画」に関する意識調査報告書(12年)によれば、既婚者の男性に対して、配偶者(妻)の不在時の生活に関する設問について「妻が不在だと困る」「妻が不在だと生活で困る」「妻が不在だと生活できない」と回答した割合は、特に40歳代、50歳代を中心に約3割存在していることが明らかになっています。

さらに、老後は誰と一緒にいたいのか、という設問について「配偶者」と回答した割合は、40歳代および50歳代で約8割、60歳代で約9割以上に上ります。中高年男性の多くが老後も妻と一緒にいることを希望し、中には、妻が不在だと生活ができないと感じている男性も少なくありません。

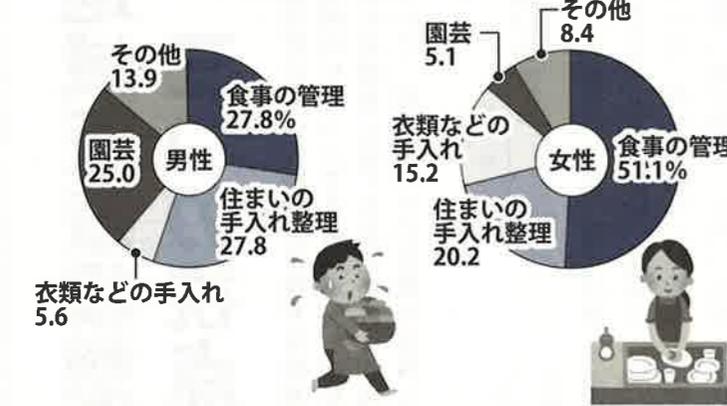
ができるとい保障はあり得ず、家事参画を行い、家事のスキルを磨いておくことは、自身のリスクマネジメントにつながるのです。

二つ目は、生活の楽しみを増やすことです。ベターホームの料理教室では、ベターホームの料理教室を1年以上受講した60～70歳の男性に対して調査「シニア男性、料理を習ってどう変わりました？」を行っています。



男性の家事はリスクマネジメント対応としても必要

行動の種類(家事)別構成割合



出所 「2011年社会生活基本調査結果」(総務省統計局)

しかし、現実はどう甘くはありません。いつまでも妻と一緒に生活

ます。家事に携わった経験が少ない男性が急に家事に参画するとなると、妻に嫌がられるなど、最初は戸惑いや居心地の悪さを感じることも多いかもしれません。まずは行動を起こしてみたいかがでしょうか。

日本総合研究所 創発戦略センター ESG アナリスト 小島 明子